



# 附属小学校だより

平成26年7月発行

## 研究の推進と交流・発信

附属小学校の使命の一つに、「教育研究を推進し、その交流・発信に努める。」ことがあります。

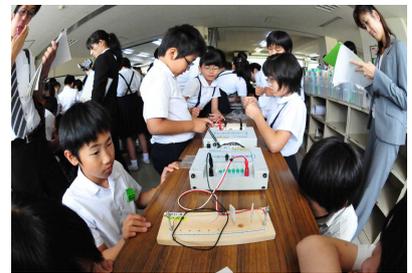
本校では、平成20年度より5年間、「よりよく思考する子どもが育つ授業の創造」と研究主題を設定し、実践を積み重ねてきました。その研究成果と課題を踏まえ、昨年7月から、研究主題を「思考の活性化による認識の深まり」と新たに設定し、実践を進めています。そして、6月13日に研究成果の一端を公開する教育研究発表会を開催しました。

当日は、県内外の小学校教員や将来教員を目指す学生など、およそ450名の参加者がありました。研究会の内容を紹介します。

### 【公開授業】

午前には8授業、午後には7授業を公開しました。全教科及び外国語活動の授業です。

本年度は研究副題を「子供が認識を深める様相を探る」としています。授業者は、様々な資料を提示したり、教育機器を活用したりして、子供が認識を深めることができるような工夫をしていました。また、参加者は、子供の発言に感心しながら、熱心に授業記録をとっていました。



6年生理科の授業風景

### 【協議会】

公開授業後、それぞれの授業について協議会を行いました。

どの協議会も意見が途切れることもなく、あっという間に予定していた1時間が過ぎていきました。私たちにとっては、たいへん充実した協議会になりました。

### 【シンポジウム】

シンポジストとして、露木和男先生（早稲田大学）、樺山敏郎先生（国立教育政策研究所）、津田正之先生（国立教育政策研究所）の3名、司会者として、岡崎誠司先生（富山大学・本校前校長）にお願いしました。

シンポジウムは、「各教科の本質に迫る授業とは」というテーマで進められました。

露木先生は理科、樺山先生は国語、津田先生は音楽、そして、岡崎先生は社会が専門です。それぞれの先生から、各教科において今求められている「認識」についての考えを聞いたり、どうすればその「認識」を深めることができるのかを具体的に話していただいたりしました。また、公開授業についても触れていただき、とても中味の濃いシンポジウムになりました。

研究会を終えて思ったことは、本校の研究が、多くの方々の指導や力添えを得て成り立っているということです。感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして、これからの研究に一層精進していかなければならないと、決意を新たにしました。

## お礼

同窓会より教育用オルガンを2台寄贈していただきました。CDプレーヤー機能、USB接続端子等を搭載しています。これまで以上に音楽の指導が充実します。ありがとうございました。



## 快適な環境

昨年の8月に全普通教室にエアコンが入りました。そして、年内中に、図工室、音楽室、理科室にエアコンが入る予定です。

少しずつ、快適な環境が整ってきました。